

地道な活動高く評価

南三陸 陸
ホテル観洋 「語り部バス」最高賞

ジャパン・ツーリズム・アワード

東日本大震災の風化防止や、観光客らの防災意識向上のために行っている南三陸ホテル観洋の「語り部バス」が、優れた取り組みをしている国内外の団体や企業などを表彰するジャパン・ツーリズム・アワードで最高賞の大賞に選ばれた。地道な活動が高く評価されたもので、関係者も「今後の励みになる」と喜んでいる。

「震災、風化させない」



ジャパン・ツーリズム・アワードの表彰式。前列中央がおかみの阿部さん（南三陸ホテル観洋提供）

ジャパン・ツーリズム・アワードは、観光立国日本を目指した取り組みを広く周知、啓発していくことを目的に実施。本年度は「持続可能な観光による社会の発展の実現」がテーマで、国内外の観光関係団体などから239点の応募があった。南三陸ホテル観洋は、震災直後から行っている語り部バスを主題に「震災を風化させないための語り部バス」による地域交流活性化の取り組み」でエントリーした。

同ホテルの語り部バスは震災や、それ以前の町の様子を伝える道案内として始めた。その後、震災の教訓を伝え、防災意識を高めてもらおうと、2011年秋から「語り部バス」の運行を本格的にスタートさせた。ホテルのスタッフが語り部としてバスに乗り、避難所となったホテルの様子やスタッフ自身の被災体験、震災で学んだ教訓などを伝えている。

教育旅行や企業研修、自治体視察などの利用が多く、これまでに延べ30万人以上が利用している。ホテルの

スタッフ以外にも、住民の語り部を活用するなど地域活性化や交流人口増加の一翼も担っている。

日本の旅行業界最大のイベント「ツーリズムEXPO2017」の席上（東京ビッグサイト）、表彰式が行われ、同ホテルおかみの阿部憲子さんが表彰状を受けた。

阿部さんは「震災を風化させないという語り部バスの取り組みが評価されたことはとても光栄。これからも多くの人に震災を語り継ぐため、語り部バスの取り組みを復興に合わせ進化させ、継続していきたい」と話している。

2017年 10月7日 (土)
【三陸新報】